

Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピエンティエ



Information
de la Bibliothèque
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No. 7
2009.11.1

◆ Contents

- 1 理想的な図書館
- 2 推薦図書
- 3 利用者の声
- 4 図書館からの情報
- 5 図書館利用状況
- 6 新着図書の紹介
- 7 図書館雑感⑥
- 8 図書館からのお知らせ
- 8 会議等の情報
- 8 受験生の図書館利用受入について
- 8 編集後記

理想的な図書館

健康栄養学科学科長 山本 仁

フォンス・サピエンティエから原稿を依頼されて悩んでいるうちに、以前からの愛読書「熱帯への郷愁」（佐々学、新宿書房、1972年）を思い出し読み返してみた。書中の“石の家の思い出”と題する一篇に描かれている図書館が、今も心に残っているからである。

1971年の夏、東大医科学研究所長であった著者は、フォガティ・スカラーとして招聘されワシントン郊外ベセスダのNIHに4ヶ月間滞在する。緑ゆたかでリスやウサギが遊ぶ広大な敷地の一角に、石造り三階のゲスト・ハウスが建ちスカラー達の住居にあてられていた。

“石の家”から徒歩5分程のところ国立医学図書館がある。地上二階、地下三階の図書館の一階部分は一般に開放されており、最近5年間の医学書や雑誌等が具えられている。地下一階には1955年から65年までの医学雑誌、地下二階には単行本が展示され、地下三階は55年以前に発行された医学雑誌の書庫となっている。地下三階にはさらに幾つもの個室が並び、研究者達が自由に利用できる。

日本住血吸虫症や恙虫病などアジア地区特有の疾病については、日本の研究者達が明治時代から世界に誇る業績を積み重ねてきた。しかし論

文の多くは“東京医事新報”や“中外医事新報”など、国内の医学雑誌に日本語で発表されたために、正当な評価を与えられたとは言い難い。然るに国立医学図書館には欧米の古い文献とともに明治時代からの日本語の医学雑誌が、広く収集され保存されているのだ。

著者は石の家から国立医学図書館へ連日通い、世界中から集められた膨大な熱帯医学関連文献を読むことに没頭する。そしてフィラリア症に関して、数百人の研究者が80年間蓄積してきた知識の集大成を研究テーマに選び、4ヶ月間資料の蒐集に尽力している。

その後更に5年余の歳月を要するが、英文の800頁を超す名著“人間のフィラリア病”の刊行（東大出版会）は、卓越した研究者の頭脳と優れた図書館が出合うことによって達成された偉業と言えよう。

図書館の規模は様々であり、訪れる利用者の目的も様々である。しかし所蔵している書籍の質・量だけでなく、使い勝手や付帯施設の充実などもまた図書館評価の重要な要素と考えられる。

仙台白百合女子大学の図書館は、どの様な理想像を掲げて歩いていくのだろう。期待をこめて見守りたい。

佐々 学：東京帝大医学部卒。東大伝染病研究所（後の医科学研究所）に勤務。熱帯病およびその媒介者である衛生動物の世界的な研究者。WHO顧問などとして海外でも活躍。

フォガティ・スカラーシップ：米国上院議員の提唱で発足した国費運営の制度。医学・生物学領域の高級研究者から選抜して研究助成を行う。助成に伴う義務や責任は一切課せられない。

NIH（National Institute of Health；国立衛生研究所）：十以上の研究所と1万人以上の職員を抱える、世界最大規模の医学分野の国立研究機関。世界に門戸を開き有能な研究者を集めることでも有名。

アンドレ・ヴェイユ自伝 上下 ある数学者の修業時代／アンドレ・ヴェイユ著 稲葉延子訳 シュブリンガーフェアーク東京 2004年増補新版

国際教養学科学科長

アンソニー スミス

本書は、20世紀の大数学者アンドレ・ヴェイユの自伝である。著者のヴェイユは1906年パリに生まれ、1998年米国のプリンストンにて92歳で逝去した。1955年には歴史に残る国際シンポジウムで来日し、日本の数学者に多大な影響を与えたことでも知られている。また、1994年には、稲盛財団より京都賞基礎科学部門を受賞し、再来日した。今年生誕100年を迎えた思想家のシモーヌ・ヴェイユの兄にあたる。また娘のシルヴィ・ヴェイユも作家であるが、2004年、二度目の来日の際、本人の強い希望で仙台にも観光に訪れている。

さて、本書は、数学者の半生を語ったものだが、全般としては数学の書ではなく、20世紀を生きぬいた知識人が、どのようにその半生を送ったかを語ったものである。そこには、フランスで生まれたユダヤ系のヴェイユが、時代に翻弄されつつも、インドやアメリカ、ブラジルなど、世界をまたにか

けて、数学界に革命をもたらすほどの業績を積み、その日々がときに楽しく軽やかに語られる。この自伝に登場する人物は、人名索引が3ページにも渡るほどで、ガンディーを初めとして、あらゆる分野に広がっている。第二次大戦中には、スパイ容疑で投獄され、死刑執行前日に免れるなど、語られているエピソードは、波乱万丈の一言につきる。

訳者によれば、本書の読者は、数学・思想・宗教・民族など、どの分野に興味があっても、自らの視座をもつ人々が相応しいという。

新版には、1930年代にフランスとともに数学を学んだという彌永昌吉氏の、心に響く追悼文も加えられている。二人の偉大な才能の持ち主の交流は、読む者に、人間の大きさ、可能性、そして優しさを再認識させてくれる。まさに、本書は、人間観察の書であろう。

ミラノ 霧の風景／須賀敦子著 白水社

庶務課長

八島礼子

「ミラノに霧の日は少なくなったというけれど、記憶の中のミラノには、いまでもあの霧が静かに流れている。」『ミラノ 霧の風景』の一節です。著者は須賀敦子。この作品がデビュー作であり、講談社エッセイ賞、女流文学賞を受賞しています。

受賞された頃に、朝日新聞の本の紹介が目止まり読ませていただいたのが須賀文学との出会いです。当時はまだこの作品と『コルシア書店の仲間たち』しか出版されていませんでした。この本を読み終えた後、早く次の作品が読みたいという思いになりました。須賀さんの作品全体に流れる雰囲気が好きです。品格があり深みのある美しい旋律のような文章はすっと心に染み込んでくる感じがします。言葉で表現することが難しいほどです。読み終えた後もとてもすがすがしい気持ちにさせてくれます。

イタリアで暮らした遠い日々を追想し、人、町、文学とのふれあいと、言葉にならぬため息をつづる追憶のエッセイです。この街や人という存在が須賀さんにとってどんなに大事であるのかが伝わ

り考えさせられます。

1998年69歳で亡くなるまで、1958年から13年間のイタリアで暮らした思い出を綴ったエッセイを多く執筆しています。亡くなって半年後に河出書房新社から出版された「文藝別冊 追悼特集 須賀敦子」には多くの方々の追悼文が掲載されており、須賀敦子を良く知ることができます。また、季刊誌「考える人」冬号（新潮社 2009）には、「書かれなかった須賀敦子の本」特集で、自分がかつて出会ったフランス人修道女についての長編小説『アルザスの曲がりくねった道』の未定稿が紹介されています。遠藤周作さんが書いた『白い人』の後の世界を書かなければならないとおっしゃっていたそうです。

ミラノ「コルシア・デイ・セルヴィ書店」ではカトリック左派の仲間との活動、また帰国後は執筆者であり、社会活動の「エマウス運動」にも没頭するなど、カトリックの信仰について語ることはありませんでしたが、彼女の人生はカトリックの信仰に貫かれていたと言えるのではないのでしょうか。

食べすぎてしまう女たちー「愛」の依存症／ジェニー・ロス著 講談社

健康栄養学科(4年)

内海貴子

私の推薦図書は、ジェニー・ロス著『食べすぎてしまう女たちー「愛」の依存症』です。この本は、主に摂食障害である過食症について書かれていますが、本当のテーマは、「愛」についてです。食物を愛の対象の代わりにする女性たちを優しく導き、強迫行為の牢獄から連れ去る手段や心構えが書かれています。著者のジェニー・ロス自身も過食症で、摂食障害の分野で活躍しているセラピストでもあり、自らの体験談と患者の相談の事例が記載されています。

本書の中で、彼女は、過食症は傷ではなく、傷を覆うギプスだと言っています。過食している限り、何をどれだけ食べたか、どれほど自分が太ったかということに振り回されてしまいがちですが、本当の苦痛とは、食べ物や意志の力や人の目に映る自分の姿から来ているわけではありません。無視、信頼・愛情の欠如、虐待など、覆われている傷が何なのか、本当の苦痛はどこから来ているのかが分からない限

り、そこから抜け出すことは出来ないのです。

私が最も衝撃的だったのは、8歳の過食症患者の母親に対し、カウンセラーのクララが言った言葉でした。「お帰りになって枕カバー一杯になるくらい娘さんの好きなチョコレートを買ってください。その枕カバーを娘さんに渡して、いつでも好きなときに好きなだけ食べさせてください。・・・(中略)・・・一週間後にお電話をください。」彼女は愛情に飢えていました。愛をもらえない代わりに、過食することで必死に偽物の愛を食べていました。母親がいくらでも食べていいということを伝え続けることで、彼女は本来の食欲を取り戻すことが出来ると考え、クララはこの言葉を選びました。

私はこの本を読んで、著者であるジェニー・ロスの生き方や過食症に対する考え方に興味を持ちました。本との出会いは、著者との出会いでもあります。これからも、読書を通してたくさんの人たちとの出会いを楽しみたいと思います。

「東京の老舗の蕎麦屋の如く」

総合福祉学科 白川 充

実は大きな声では言えないが、図書館には、あまり行かない。理由は、図書館までが少し遠いのと、必要な文献その他がネットなどを通して手に入りやすくなったからである。とはいえ、利用者の声を書く以上、行きもしないで書くわけにはいかないので、まず4年のゼミ生で、よく図書館を利用しているAさんに最近の図書館の様子を聞き、予備知識を手に入れ、それをもとに久しぶりに図書館に行ってみた。午後の授業の合間だったせいか、図書館に来ている学生は20名ほどであった。なんとそこには3年のゼミ生もいた。

みんなが思い思いに利用していて、なかなか良い雰囲気である。

本が足りないとか、勉強するスペースが足りないとか、開館時間が短いとか、図書館に対する要望というものは切れない。久しぶりに行って、ふと思ったが、大切なのは雰囲気であり、東京の老舗の蕎麦屋のように、狭くてもいいから、何かを受け継ぎ、そこを利用する人もまた、その流儀をわきまえている、そんな雰囲気が大切なのだろう。本学の図書館も、早くその域に達してもらいたいものである。

「図書館は『ヒント』を探しにいくところ

就職課 青井美智子

社会人になっても、職場に図書館がある。学生時代のように調べものがあるわけではない。しかし本のあるところに行きたくなる。もちろん本屋も大好きだが、図書館の静かな空間には何か秘密めいた魅力がある。私の場合、たいていは昼休みの残りわずかの時間に足を運ぶ程度であるが、それは「本の森へのさんぽ」といった感じだ。短時間でも書棚を眺め、気になる本を手取る。椅子に腰掛けて、木の葉のざわめきと鳥の声を耳にしながら文字を追っていると

本は何か『ヒント』を与えてくれるもの」

一瞬、異空間にいるように感じられる。その本の持つ時間と空間に自分を置く。「答え探し」ではなく、もしかしたら何か（いいもの）が見つかるかもしれないとワクワクしながら、読みかじりをする。図書館は私にとって「何かヒントが見つかるところ」、本は私に「ヒントを与えてくれるもの」である。

「心のアルバムの1ページ、図書館」

総合福祉学科（4年） 馬場広子

私にとっての図書館とは、自分だけの時間をつくれる、とおき場所（空間）である。自主学習や文献・論文探しをしたり、時には読書に没頭するなど有意義な時間を過ごすことができる。また、一人になりたい時など図書館へ行き自己と向き合う時間をつくる事も大切なことだと最近になって思えるようになってきた。考えてみると、図書館を利用し始めて早いことに4年が経過しようとしている。その分、思い入れもある為、少し名残惜しさを感じる。自分自身の学習だけにとどまらず、同じゼミの子と集まり、話し合い

や打ち合わせをしたこと、時には昼寝をしたこと等、思い出が多く詰まっている。図書館へは、空き時間や放課後などの時間を利用して通っており、今では図書館で過ごす事が私の生活の一部になっているように思える。振り返ってみると、そこには、その時々思いをもった自分が存在する。

あなたも図書館で自分だけの有意義な時を過ごしてみませんか。



ワンクリックで未知なる世界へ (Japan Knowledge)

図書館からの情報

図書館には様々なオンラインデータベースが入っているのはご存知ですか？一昔前は分厚い辞書をヨッコイショと何冊も抱え、しおりをはさんだり付箋を貼ったりして分からない言葉を調べ、コピー機で必死にコピーしたり書き写したりしたものでした。これはこれで「自分で探しているんだ！」という実感があったものです。感傷はさておき、昨今のデータベースではキーワードを入れさえすればワンクリックで調べたい言葉の説明があらわれ、そのままプリンターで印刷もできます。

え？そんなことは全然知らなかった？それはもったいない！！

今回はオンラインデータベースのひとつ、**Japan Knowledge** (ジャパナレッジ) について、先日行われたジャパナレッジフレンドシップセミナーに参加して覚えてきたコツとともに簡単にご案内したいと思います。



知的探索サイト 知識の海への玄関口



図書館ホームページのトップ画面左端にジャパナレッジのアイコンがあります。ここから知的航海に乗り出せます。同時にアクセスができるのは4台です。しかも学内であればいつでもサイトを開くことができます。

実は、このジャパナレッジ、様々な辞書やデータベースの複合検索サイトです。軽く列挙すると「日本大百科全書」「ランダムハウス英和大辞典」「現代用語の基礎知識」「会社四季報」「週刊エコノミスト」「東洋文庫」等等。全文検索もできますし、見出しだけに絞って検索することもできるというスグレモノです。



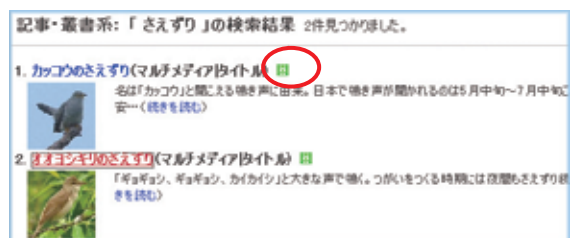
ジャパナレッジの優れている点 Yahoo や Google とどう違うの？

①信頼性のある情報源

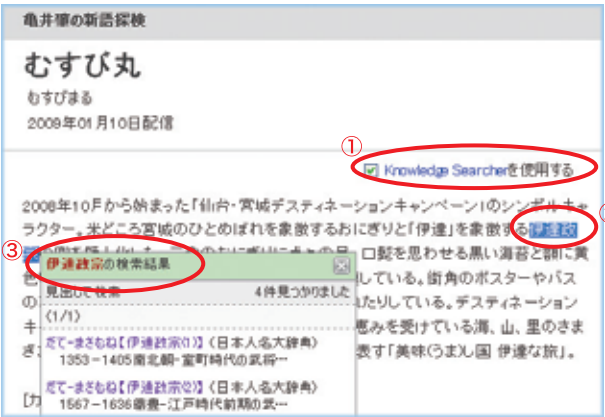
裏づけのないまま、一般の人が又聞きやうる覚えで書いた情報でさえ、あたかも事実のように書いてしまうことが増えているようです。大学でのレポートや論文には信用のある情報源を使うことが鉄則です。ブログにのっていたから。ネットで見たから。このような信憑性のない情報に振り回されずに必要な情報を使いこなす能力をつけてほしいのです。そこでこのジャパナレッジの情報が役立ちます。

②なるほど！そういうつながりがあったのか！

Yahoo や Google、Wikipedia でキーワードを入れて、それで調べ物おしまい、ということはありませんでしたか？単語そのものの意味を調べることも大切ですが、他の事項との関連性を知ることでそのものをより深く知ることができるという場合もあります。このジャパナレッジには関係性を知るための仕掛けがたくさんあります。関連サイトであったり、音声情報や動画情報であったり。自分でたどっていきと思いがけない情報に出会い、手ごたえをつかむことで、自分に自信がつくはずですよ。



こんな使い方はいかが？ Knowledge Searcher



①「Knowledge Searcher を使用する」という欄にチェックを入れておく⇒②検索した単語の説明文中においてさらに分からない単語をドラッグし、反転させる⇒③ドラッグした単語を検索し表示してくれる



検索された単語をクリックすることで説明文へと到達することもできます。なんと画期的な機能だと思いませんか！？思いもしなかった関係性や結果を導いてくれるかもしれません。

就職活動に利用できます 「会社四季報」



就職活動中の皆さんにおススメしたいのが「会社四季報」です。就職課でも企業ファイルというのは用意してありますが、株価や財政状況といった現時点での情報が更新しにくいというのが弱点かもしれません。そんな部分を補うのがこのデータベースです。

会社を深く知った上で臨まなければならない入社試験や面接など、企業研究にお役立てください。履歴書を書くにあたって、志望動機を考える際の材料にもなること間違いなしです。ぜひこのデータベースを使いこなして就職活動を有利に展開していただきたいものです。

以上、ご紹介できなかった利用方法やお伝えしたい便利機能がまだまだたくさんあります。

使ってみてこんな機能がとっても便利だったよ！ということや、図書館員が気づいてもいない機能があるかもしれません。希望が多ければ、講習会を開くことも視野に入れ、今後も知的探索のお手伝いをさせていただくつもりです。逆に、なんだかいっぱいありすぎてよく分からないと思ったあなた。まずは図書館ホームページのJapan Knowledgeのアイコンをクリック！

図書館利用状況

2009年4月1日～2009年9月30日

学科	専攻	人数	入館人数	学科・専攻 人当館(回)	貸出冊数(冊)	学科・専攻 人当館(回)	貸出人数(人)	学科・専攻 人当館(回)	AV閲覧回数(回)	学科・専攻 人当館(回)	AV閲覧人数(人)	学科・専攻 人当館(回)
人間発達学科		380	2,600	6.8	930	2.4	482	1.3	151	0.4	132	0.3
総合福祉学科		291	2,897	10.0	1,496	5.1	730	2.5	129	0.4	114	0.4
	生活福祉専攻	143	945	6.6	415	2.9	202	1.4	83	0.6	71	0.5
	人間福祉専攻	148	1,952	13.2	1,081	7.3	528	3.6	46	0.3	43	0.3
健康栄養学科		321	2,648	8.2	906	2.8	497	1.5	115	0.4	97	0.3
	管理栄養専攻	230	2,194	9.5	765	3.3	418	1.8	102	0.4	84	0.4
	食物学専攻	91	454	5.0	141	1.5	79	0.9	13	0.1	13	0.1
国際教養学科		310	2,282	7.4	537	1.7	301	1.0	307	1.0	269	0.9
専任教職員		108	883	8.2	256	2.4	123	1.1	0	0.0	0	0.0
一般利用者(非常勤等含)		—	160	—	113	—	64	—	0	—	0	—
計		1,410	11,470	8.1	4,238	3.0	2,197	1.6	702	0.5	612	0.4



書館から“NEWS”を続々発信！

新着図書を紹介

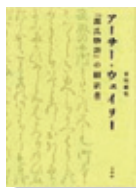


「賀川ハル資料集 全3巻」 三原容子 編 緑蔭書房

賀川豊彦は、大正・昭和期の日本の近代化の過程で、社会の諸問題に直面した社会的弱者のために生涯を捧げたキリスト教社会運動家、社会改良家であり、戦前日本の労働運動、農民運動、無産政党運動、生活協同組合運動において、重要な役割を担った人物である。

今年2009年は、その賀川が21歳で当時日本最大のスラムの一つであった神戸新川に飛び込んでさまざまな救済活動を行いはじめた1909年から100周年にあたり、「賀川豊彦献身100年記念事業」としてさまざまなイベントが企画されている。その一環として、8月に発行されたのが『賀川ハル資料集』である。

ハルは豊彦のよき伴侶であり最大の協力者でもあった。ハルの著作、日記、書館、写真を網羅したこの3巻の資料集は、賀川豊彦研究にとっても欠かせない資料となりそうである。また、賀川豊彦個人雑誌「雲の柱」、イエスの友会雑誌「火の柱」、「神の國新聞」の復刻版や『賀川豊彦史料集』も入ったので、そちらもご参照いただきたい。



「アーサー・ウェイリー：『源氏物語』の翻訳者」 平川祐弘 著 白水社

アーサー・ディヴィッド・ウェイリー(1889-1966)は、ユダヤ系の名門の家に生まれた英国人で、ケンブリッジのキングズ・カレッジへ進み、大英博物館の学芸員を経て一大翻訳家となった人である。

彼は、当時のイギリス文壇の主流を形づくっていた、主としてケンブリッジ出身者で構成されたブルームズベリー・グループの文人たちと即かず離れずの交際をしていた。東洋の文化に興味を持ち、中国の詩をいかにも英語の詩らしい詩に訳し平明でわかりやすいものであったので評判となった。また、謡曲の詩文学としての魅力と複式無限能の構造を西洋に伝えているが、『源氏物語』を巧みに英訳してその世界観を英語で再現してみせたということ、日本文学の素晴らしさを西洋人にもわかるように紹介した最大の功労者であった。この本は、そのウェイリーの生涯と業績、その翻訳の妙を伝え、『源氏物語』の魅力を存分に解説した、第57回日本エッセイスト・クラブ賞受賞の図書である。



「戦後日本スタディーズ 1-3」 岩崎稔 [ほか] 編著 紀伊國屋書店

今、「戦後」を問い直すための見取り図を提示し、特に社会運動に力点をおいて総括しようとする全3巻のシリーズ。

1巻目は1940・50年代の、長く続いた戦争の影響が戦後に至っても継続することを人々の経験の中から描き出すとともに、敗戦と占領の中での変革、改革の試みを探る。

2巻では、世界的な規模で生じた「60年」と「68年」の地殻変動を軸としながら、この時期の政治・経済・社会の激動の様相を探る。

3巻では、グローバリゼーションのもとでの世界とアジアの変化を見据えながら、猛威をふるうネオリベリズムのもとでの社会や生活の再編のようす、また文化のようすを考察する。



「日本人の曖昧力：融合する文化が世界を動かす」 呉善花 著 PHP研究所

日本人は「物事ははっきり言わない」「自主性がない」などと非難されることが多い。しかし、韓国出身の比較文化学者である著者は、むしろ曖昧だからこそ、日本は世界で有数の安全で豊かな国になれたのだ、これからは世界全体に、調和がとれた人間関係、環境への順応性を生み出す「曖昧力」が求められる時代になるだろうと主張する。

日本人は、直接言葉や態度に出ていない相手の心の内を察し、それぞれの時・場所・状況にてらしてみようという理解をしている。そのような曖昧さを察し合うというコミュニケーション文化が日本にはあり、これからの調和と融合をめざす国際社会では、この「曖昧力」の働きが大きな役割を果たすようになるであろうと、著者は言う。

拓殖大学の超人気講義を紙上に再現した本。聴講した学生のように、「曖昧さが自身でも欠点であるかのように感じていたが、なぜこういう見方を今まで教えてくれなかったのか。」と目からウロコが落ちるかも。



「永井荷風：仮面と実像」 柘植光彦 編著 ぎょうせい

永井荷風には、文学はもとより、生活・趣味・思想にいたるまで、実に様々な風貌があり、変幻自在の趣をみせていた。多彩な顔を持つ荷風を、「生活者」「探検家」「文学者」「抵抗者」「耽美家」「戯作者」の六つの分野から考察し、謎多き巨人の全体像に迫る。

一人の作家に対する関心や理解や評価が、これほど異なる例は類を見ない。その謎を解く鍵は、荷風の人生そのもののなかにあるのかもしれないと、荷風を語らせては当代一流の執筆陣が、小説・随筆・日記、あるいは生活・趣味・思想まで迫り、荷風の核心を説き明かした。

特に今年は、永井荷風生誕130年・没後50年ということで、荷風展などのイベントを企画するところも多く、記念出版ということでまさにタイムリーな注目の本である。



「川のささやき：辻井伸行サントリーホールLIVE!」 辻井伸行 演奏 エイベックス

2009年6月にアメリカで行われたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで、日本人がはじめて優勝し、しかも盲目ということで一躍話題の人となった辻井伸行氏が2008年1月31日にサントリーホールで行ったリサイタルを、6台のカメラを駆使して収録したDVD。

視覚障害を持ちながらも感動と喜びを巻き起こす天才ピアニストが、ショパンの「小守歌」・「スケルツォ第2番」や、ヴェートーヴェンのピアノソナタ「月光」・「熱情」を圧倒的なテクニックで演奏し、アンコールのオリジナル曲「川のささやき」・「ロックフェラーの天使の羽」とあわせて深い感動を呼び起こす。同時に、図書として、辻井氏の母親である辻井いつ子氏の著書「のぶカンタービレ!」・「今日の風、何色?」も入っているの、あわせてごらんいただきたい。

その他の今年度新着図書の一部

「アンティキテラ 古代ギリシアのコンピュータ」 ジョー・マーチャント 著 文藝春秋
 「都市伝説の正体：こんな話を聞いたことはありませんか?」 宇佐和通 著 祥伝社
 「IQ84 Book 1, Book 2」 村上春樹 著 新潮社
 「日本を創った思想家たち」 荒田小彌太 著 PHP研究所
 「政治のことよくわからないいま社会人になってしまった人へ」 池上彰 著 海竜社
 「ターシャ・テューダー最後のことば」 ターシャ・テューダー 術 白泉社

「マエストロ、それはムリですよ…」 飯森範親と山形交響楽団の挑戦 飯森範親 監修 ヤマハ・ミュージック
 「おい! ちゃんの絵手紙: 孫に宛てた1200通のおくりもの」 ヘンリー・ソーンヒル卿 絵 講談社
 「500年のときを経てついに明かされたダ・ヴィンチの秘密」 丸山修寛 著 幻冬舎ルネッサンス
 「しがみつかない生き方: 「ふつうの幸せ」を手に入れる10のルール」 香山リカ 著 幻冬舎
 「半島へ、ふたたび」 蓮池薫 著 新潮社
 「神様のカルテ」 夏川草介 著 小学館

トリニティーカレッジの図書館を訪れて

健康栄養学科 佐々木裕子

私は、図書館が大好きである。

本というよりも、図書館という空間に身をおくと、なにか不思議と癒やされる気がする。

その中で強烈な印象だったのは、アイルランドを旅した際に訪れたトリニティー・カレッジの図書館である。一昨年、我が家の長女はハリーポッター(?)に憧れて、英国の大学へ旅立っていった。そのハリーポッターの映画のモデルになった図書館が、アイルランドのダブリンにあるというので、旅してみることにした。

トリニティー・カレッジ(Trinity College)は、1592年にエリザベス1世の勅令によって入植者・官吏・国教会子弟の高等教育のために設立された。オックスフォード大学やケンブリッジ大学と並び、英語圏最古の7大学のひとつで、欧州TOP10にランキングされる名門大学である。トリニティーとは、アイルランドにカトリックを広めた聖人＝セント・パトリックが、キリスト教の父と子と聖霊は一つであるという三位一体の教えをやさしく説明するために、三つ葉のクローバーを使ったことに由来するとパンフレットに書いてあった。

図書館に入ると、まさしくハリーポッターの映画の世界であり、かつアイルランドの中でも最も広範囲な学術研究書を揃えていた。2階のロングルームには、400年以上に及ぶ本の購入や寄付に加え、英国とアイルランドの毎年の出版物全てが収められていた。学術雑誌の他に、エジプト時代のパピルス、重要な地図や音楽に関する本、広く集められている写本など、あわせて400～500万冊の本を所有していると説明を受けた。天井まで埋め尽くした古書が、私達を中世ヨーロッパにタイムスリップさせてくれるようだった。映画スターウォーズのエピソードIIにおいて登場するジェダイ・アーカイヴはこの図書館をもとにイメージされたらしい。ここでは、イギリス、アイルランド両国で発行された書籍について、全てを無償で請求できる権利とともに、自由に複写する事ができる特別な権利を有していた。

中でも、1200年前につくられた「ケルズの書」は、世界で一番美しい本、キリスト教界の至宝といわれている。1階の展示室で、「ケルズの書」を見ることができた。「古い装飾写本として世界でも最も美しく、4つの福音書(マタイ伝、マルコ伝、ルカ伝、ヨハネ伝)・序文・要約そして戒律目録・福音の用語索引で成り立っている」というアナウンスを聞いた。4～5世紀アイルランドの文字であるアンシャル文字で書かれた書物は、本というよりも芸術品であった。特有の渦巻き紋や人や動物も描かれ、まさしくケルト美術の最高峰である。上質な皮紙の上にラテン語で書かれた福音聖句には、壮観で複雑な飾りも施されていた。キリスト教写本では他に、807年に作られたとされる「アーマーの書」、675年に作られたとされる「ダロウの書」も展示されていた。

写本をした歴史上の人物達は、何を考え、何を目標に生きていたのかに思いをめぐらせるとともに、一瞬、自分の中に眠っている遠い記憶が甦ってくるような錯覚にとらわれた。



図書館からのお知らせ

●第64回東北地区大学図書館協議会総会報告

開催日：2009年9月17日(木)

場 所：仙台市戦災復興記念館

東北地区大学図書館協議会とは、東北地区の国・公・私立大学図書館・短期大学図書館の集まりで、図書館運営、資料管理などにおける共通課題の解決、また、職員のスキル向上を協力、連携して実現するため、総会、研修会、研修部会、ウェブサイト運用部会等を通して活動している。

今年度の総会は本学図書館が当番校として、資料作成や会場設営等の運営にたずさわった。

今回から、仙台青葉学院短期大学図書館、東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部図書館、青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター、3館の加盟が認められ、総加盟館数は現在64館となっている。図書館に関わる様々な情報を交換できて、大変有意義な会合であった。



●2009年度図書館会議・研修会の情報(主なもの)

- ・2009年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会
期 日：6月19日(金)

場 所：東京純心女子大学

- ・2009年度東北地区大学図書館協議会合同研修会
期 日：6月26日(金)

場 所：八戸大学

- ・2009年度東北地区大学図書館協議会総会
期 日：9月17日(木)

場 所：仙台市戦災復興記念館

- ・2009年度日本カトリック大学連盟図書館協議会実務研究会
期 日：11月27日(金)

場 所：東京純心女子大学

●受験生のみなさん、大学図書館の雰囲気を感じてみませんか？●

～受験生の図書館利用受入について～

夏休みに引き続き、図書館を開放することになりました。

- 【利用対象】 受験を控えた、中・高校生および予備校生（女子に限ります）
- 【期 間】 2009年12月1日（火）～2010年3月17日（水）の開館日
- 【受付時間】 9時～16時
- 【休 館 日】 土日祝日、クリスマス、冬期休校中
- 【持参する物】 生徒手帳 or 学生証
- 【利用方法】 利用希望日時を事前に電話かE-mailにて連絡してください。
- 【問い合わせ先】 図書館直通：022-374-5090 E-mail：library@sendai-shirayuri.ac.jp
- 【注 意 事 項】 図書館内は飲食禁止です。お昼等は指定された場所でお取りください。
- 【利用できるサービス】 館内での勉強・閲覧・DVD等の視聴が利用できます。貸出は行いません。
- 【ア ク セ ス】 宮城交通（鶴が丘ニュータウン行き）

地下鉄八乙女駅→循環器病センター入口下車 徒歩5分

地下鉄泉中央駅→循環器病センター入口下車 徒歩5分

その他、不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

◆ 編集後記 ◆

Fons Sapientiae（仙台白百合女子大学図書館報）No.7をお届け致します。今回は、巻頭言で健康栄養学科長である山本仁先生に「理想的な図書館」同じく佐々木裕子先生に図書館雑感で「トリニティーカレッジの図書館を訪れて」総合福祉学科の白川充先生に利用者の声で、それぞれ本学の図書館に対する期待と進む道への希望をお寄せ頂いた。今年度図書館では、日本カトリック大学連盟図書館協議会総会、東北地区大学図書館協議会合同研修会の当番校として、大本館長を先頭にフル回転で取り組んだ。また、夏休みには受験生へ図書館の開放も行った。図書館のリニューアル前後の体制を整える時期から、図書館を利用者のニーズに添える機能を発揮する時期へと移行してきている。その先に、本学における文化と伝統が醸成され、本学の理想的な図書館像が見えてくるようになり、「図書館」という空間に身を置く、何か不思議と癒される「東京の老舗蕎麦屋のような雰囲気」といった期待が果たされるようになると考える。（大坂）

年2回発行の図書館報も早いもので第7号を迎えました。図書館が独立棟として新しくオープンしたのが10月なので、もう3年たったことになります。

図書館報でデータベースや電子ジャーナル、特殊資料の紹介を行って来ましたが、どのようなものが入っていて、どういう風に使ったら良いのか、まだまだ浸透するに至っていない実情で、広報の必要性を感じております。

さて、今回の特集は、ジャパンナレッジという、ワンクリックでいろいろな辞書やデータを検索できる知的検索サイトです。信頼できる情報や関連情報等を簡単に検索できる上、「会社四季報」「週刊エコノミスト」などの様々なコンテンツを見ることができます。来年度からは、「日本国語大辞典」「日本歴史地名大系」をプラスする予定です。「朝日」「日経」「河北」の新聞データベースや、他のデータベースと共に大いに活用いただきたいと思います。（生出）

図 書 委 員：大本泉、大坂純、原田雅樹、佐藤幸夫
図書館職員：生出登、高橋成美、須藤清美、山口晋子